

標準委員会 システム安全専門部会 シビアアクシデントマネジメント分科会
第 39 回シビアアクシデントマネジメント分科会 議事録

1. 日 時 2022 年 6 月 16 日 (木) 10:00~11:30
2. 場 所 Web 会議
3. 参加者 (敬称略)
(委 員) 植田主査 (電中研), 益田幹事 (東北電), 及川 (東芝 ESS), 織田 (日立 GE), 倉本 (NEL), 柴本 (JAEA), 辻 (MHI), 出町 (東大), 西村 (電中研), 板東 (東電 HD), 西川 (関電), 守田 (九大), 山中 (原電), 山本 (JANUS), 涌永 (中部電)
(欠席委員) 二木 (TEPSYS)
(委員候補) 千年 (日立 GE), 大友 (東北電)
(常時参加者候補) 熊谷 (原電エンジ), 小島 (東芝 ESS), 佐藤 (東芝 ESS), 菊池 (東北電)
(21 名)

4. 配布資料

- | | |
|------------|--|
| S2SC39-0 | 議事次第 |
| S2SC39-1 | 第 38 回シビアアクシデントマネジメント分科会議事録 (案) |
| S2SC39-2 | 人事について |
| S2SC39-3-1 | シビアアクシデントマネジメント実施基準改定に向けた進め方について (案) |
| S2SC39-3-2 | シビアアクシデントマネジメント分科会今後の分科会開催時期について |
| S2SC39-3-3 | シビアアクシデントマネジメント標準改定に係る分担表 (案) |
| S2SC39-4 | 外的事象に対する原子力発電所の安全対策とリスクマネジメント
(2) 事業者における取り組み |
| S2SC39-参-1 | シビアアクシデントマネジメント分科会名簿 |
| S2SC39-参-2 | システム安全専門部会 標準策定 5 か年計画 (2022 年度版) |
| S2SC39-参-3 | 重要度 “高” の新知見の概要 |

5. 議事要旨

(1) 前回議事録の確認

益田幹事より, S2SC39-1 の資料を用いて, 前回議事録について紹介された。特にコメントはなく, 議事録は正式に承認された。

(2) 人事について

益田幹事より, S2SC39-2 の資料を用いて, 2 委員候補の委員選任, 2 委員の退任, 4 常時参加者候補の常時参加者登録および 9 常時参加者の常時参加者登録解除について説明があった。

投票の結果, 千年委員候補 (日立 GE) および大友委員候補 (東北電) の委員選任ならびに熊谷常時参加者候補 (原電エンジ), 小島常時参加者候補 (東芝 ESS), 佐藤常時参加者候補 (東芝 ESS) および菊池常時参加者候補 (東北電) の常時参加者登録について, 承認された。

また、2022年8月の益田幹事退任に伴い、植田主査より大友委員候補への幹事指名が行われるとともに、併せて大友委員候補の分科会代表者への選任について、承認された。

(3) シビアアクシデントマネジメント実施基準改定について

益田幹事より、S2SC39-3の資料を用いて、今後のシビアアクシデントマネジメント実施基準改定について説明された。

主な議事を以下に示す。

- ・ 新知見の取り込みのうち、学会発表から得られた知見であるダイナミック PRA、マルチユニット PRA 等については、現時点で実機適用まで進んでいないことから、その扱いについては、整理が必要。また、1F 事故知見については格納容器の機能喪失後を対象としており、隔離機能が一定程度喪失した条件でのマネジメントとなった場合、標準の範囲が変わってくることもあるため整理が必要ではないか。
→上記2件については、今後の改定作業の中で、改めて知見の整理を進め、取り込みの要否、記載箇所の整理等を行っていくこととした。
- ・ 今後趣意書を作成する際に、この標準の位置づけを踏まえて今回の改定で何を目指すかを議論していく必要がある。
- ・ 前回の改定時は、初版で少し書ききれなかった項目である、AM の優先度（ランキング）等の具体的な課題があったので、趣意書は早めに意識されていたが、今回の改定では前回改定以降に出たレポート等を確認して、更新項目を整理していく必要がある。なお、IAEA 関係の情報については大幅な更新は無いと思うが、海外の AM の動向・国内の審査動向を俯瞰して改定にあたっていくと役立つという観点から整理していく必要がある。

議論の結果、まずは原案どおりの工程・分担で趣意書作成等始めることとなった。

(4) 標準活用例に関するご紹介

西川委員より、S2SC39-4の資料を用いて、シビアアクシデントマネジメント実施基準の活用事例が紹介された。

主な議事を以下に示す。

- ・ シビアアクシデントマネジメント実施基準を使って対策を講じるプロセスは、PWR 電力で共通であるのか。
→基本的には、同様のプロセスで評価を進めているという認識。評価を踏まえた対策の検討方針については各社のオリジナルである。
- ・ 改定に資するため、シビアアクシデントマネジメント実施基準を活用して、改善すべき点等あれば、別途共有してほしい。
- ・ 今後、PRA の範囲が、溢水火災に広がっていったときに同じような考え方でできるのかという点は課題として認識できるが、今回の改定スケジュールの先での議論となるため、今後の課題である。

(5) 次回スケジュールについて

次回分科会は8月24日(水)13時半より開催することとした。

以 上